

| | |
|------------------|---|
| Title | 編集後記 |
| Sub Title | |
| Author | 川合, 隆男(Kawai, Takao) |
| Publisher | 慶應義塾大学法学研究会 |
| Publication year | 1992 |
| Jtitle | 法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.65, No.1 (1992. 1) ,p.359- 359 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 十時巖周教授退職記念号 |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19920128-0359 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

十時殿周先生は平成四年三月末日を以って、慶應義塾大学定年制の規定に従ってご定年退職なされることになった。いざ編集後記をしたためる段になると、永年のご活躍を全うされた先生への率直な慶賀の気持ちと、いよいよ本塾を去りゆく先生の塾への愛惜の念を思う気持ちとが交錯する。

十時先生は昭和三〇年に法学部に残られて以来今日まで、永年にわたって慶應義塾大学、本塾法学部のためにお骨折りいただき、なかでもわが国においても高等教育の新たな転換期を迎えて、その舵とり役として種々困難な時期に、大学全体や法学部の運営・教育・研究の上で御活躍し御指導下さった。この間に先生のもとで育成された数多くのお弟子さんが大学や研究機関等で活躍していることは注目されているところであり、また本誌巻末の「略歴」にも示されているように、諸外国でのいく度かの訪問教授を歴任され、社会学界を中心に国際交流に大いに貢献なされ、わが国社会学界の先達者として指導的活躍をなされてこられたことは特記しておくべきであろう。

先生の定年退職に際し、十時先生へのわれわれのささやかな謝意として、ここに本誌第六五巻第一号「記念号」を献呈する次第である。この記念号発刊に直接間接に御協力いただいた方々に心よりお礼を申し上げます。法学部長の「序」をはじめ、最終的に計十四編の論文を寄稿いただき、記念号を飾ることがで

きた。学問の場・組織にかかわる者の一つ一つの大事な節目として、ささやかながらも退職記念論文集を編集する機会に恵まれたことにも感謝したい。

いささか私事にわたって恐縮であるが、同じ故米山桂三先生の門下として学び、十時先生にお近づきになったことはわたしにとってもひとつの幸運であった。大学院進学への道を決心していたとはいえ、学部四年生で未熟このうえもなく拙いわたしの卒業論文を丁寧に読んで下さったこと、大学院生のころに他の人達とご一緒して鶉ノ木のお宅にお邪魔しては先生の最初の留学地であるハーバード大学での研究生活のお話を興味深く伺ったことなどがいまは懐しく想い起される。以来、公私にわたって、先生によってどれほど励まされ支えられてきたか計り知れない。体育会、なかでも野球部の部長をも長くつとめられ、有終の美で見事六大学での優勝を果されたときの十時先生のうれしそうなお顔も忘れることができない。先生の長年にわたる御活躍と御苦勞に静かに深謝し、ここに記念号を編集し、編集世話人のひとりとして編集後記を記す次第である。

十時殿周先生の御退職を記念しつつ、先生が今後とも、ますます御健康であられますように、われわれ後進に御教示、御鞭撻下されますように、心よりお願いしたい。

十時殿周先生定年退職記念号編集世話人

川合 隆男